

# 呼吸機能検査



当院では呼吸機能検査装置に電子式診断用スパイロメータ SP-370を導入しています。

ぜんそく（喘息）、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、間

質性肺疾患をはじめとする、呼吸器の病気が疑われるときや、その状態をみるときに行う検査です。息を吸ったり吐いたりして息を吸う力、吐く力、酸素を取り込む能力などを調べます。。鼻から空気が漏れないようにクリップでつまみ、マウスピースという筒をくわえて、検査技師の指示に従って息を吸ったり吐いたり



# 呼吸機能検査

します。

スパイロメトリーで計測する主な項目は次のとおりです。

肺活量	空気を胸いっぱいに取り込みそれを全て吐き出した時の空気量 (基準値は、年齢・性別・身長などによって異なります。)
%肺活量 (%VC)	年齢・性別から算出された予測肺活量(基準値)に対しての、実測肺活量の比率。 80%以下は拘束性障害を示す。(肺が広がりづらく、息を十分に吸い込めない状態)
努力性肺活量	胸いっぱい息を吸い込み、勢いよく一気に吐き出した空気量
1秒量	努力性肺活量のうちの最初の1秒間に吐き出した空気量。
1秒率 (FEV1.0%)	1秒量を努力性肺活量で割った割合(%)。 70%以下は閉塞性障害を示す。(息を吐きだす力が弱い)

